

ハシケ1

5

m

手をのばせばすぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

VOL.
12

FEATURE

難病カフェBamboo

ヴィサージュ ロカ

坂本龍吾さん

菅正彰さん 菅真理さん

ハンケイ5mショップ イベント開催情報

COVER ART OF HANKEI 5m
今号の表紙アート

「工房リーフ」丹羽昌夫さんの絵画

今号の表紙アートは、障害者就労継続支援B型事業所「工房リーフ」に通う丹羽昌夫さんによる作品です。テレビで見た雪の妖精と呼ばれる鳥「シマエナガ」、水族館で好きになった「ペンギン」、鴨川でよく見かける「カルガモ」。いずれも丹羽さんが日常で心惹かれた動物が、表情豊かに描かれています。絵の具とオイルパスによる柔らかな色使いも見事で、丹羽さんの優しい人柄が滲み出ています。「動物たちがかわいくなるようにこだわりました」と丹羽さんは笑顔で話します。

工房リーフでは、毎週水曜の1時間、臨床美術士の先生が指導にあたる創作の時間があります。10代～60代の幅広い年齢の人々、それぞれ絵の具や墨汁などさまざまな画材を扱って作品を手がけます。利用者29人のうちほとんどが参加していて、これまで創作をする機会がなかった人も、この時間にアート作品を生み出します。丹羽さんもその一人です。1時間のうち30分はどんな作品にするかを熟考し、残り30分は制作をします。毎週の創作時間を重ね、作品が完成した時が一番嬉しいそうです。

7月17日～9月22日 art space co-jin にて「リーフのこもれび」と題した展覧会が開催されます。本作品はもちろん、工房リーフのアーティストたちによる個性豊かな作品が並びます。

QRコード
工房リーフ
Instagram

ハンケイ 5m vol.12

CONTENTS

表2 ハンケイ 5m ショップ
イベント開催情報

FEATURE 1

02 坂本龍吾さん

サポートする専門職の人が
気軽に話し合う「難病カフェ Bamboo」

FEATURE 2

06 菅正彰さん、真理さん

アレルギー対応ヘアカラーや
医療用ウィッグを扱うヘアサロン
「ヴィサージュ ロカ」

10 俊朗の映画話
薬剤師DJの音楽論

11 本ホホのすすめ
人形つかいばべの話

12 私が半径5mで見つけたおすすめスイーツ

13 ハンケイ 5m vol.12 発行にあたり
RECOMMENDED CINEMA

京都・四条烏丸にある、ハンケイ5mショップでは、店内にてさまざまなイベントやワークショップを開催しています。最新情報は各種SNSにて発信中！ぜひフォローしてください。



ハンケイ5mショップ
Instagram
@hankei_5m_shop



ハンケイ5mショップ公式LINE
オンラインショップ・入荷情報は
こちらをチェック！

ハンケイ5mショップ

京都市下京区烏丸通四条下ルからす
ま京都ホテル内1F(京都市営地下鉄「四
条駅」南出口6番 徒歩1分、阪急「烏丸駅」
西出口23番 徒歩1分) / OPEN 月・水・
金・土 11時～19時
臨時休業は、Instagram・公式LINEにてお
知らせいたします。予めご了承ください。



7月15日(月)宵々山 渡邊敦子氏 カンティーヌロゼット主宰
7月16日(火)宵山 岡本典子氏 銀雪の里 マダムノンオーナー
・各日程90分入れ替え制：1席目11時～/2席目13時～/
3席目15時～/4席目17時～/5席目19時～(各回定員5名)
・料金：10,000円(税別)



和の手紙ワークショップ

日本絵道 清水流 和の手紙つくしの会師範によるワークショップ。和の手紙とは、絵と書で心を伝えるもの。季節の花と言葉を添えた和紙の挨拶状を、大切な方に送ってみませんか。



7月29日(月) 13:30～15:00
8月28日(水) 13:30～15:00
9月25日(水) 13:30～15:00

定員：各5名 講師：森脇嘉奈子先生
料金：3,300円(抹茶お菓子付・税込)

シェルズコートネイル体験ワークショップ

「シェルズコート」は、天然素材で身体に優しく、ネイルの刺激臭がしないマニキュアです。夏にぴったりなキラキラネイルを体験できます。オリジナルファイルのお土産付きです。



8月7日(水) 11:00～12:00
8月7日(水) 13:00～14:00

定員：各5名 講師：田中志津先生
料金：2,500円(抹茶お菓子付・税別)

7月20日(土)着物のメンテナンス&お直し 13:30～15:00
8月26日(月)令和のコーディネートの楽しみ方 13:30～15:00

※内容は変更の場合があります。
定員：各5名 講師：おとは先生 料金：3,300円(抹茶お菓子付・税込)

各イベントの申し込みは、ktanaka@arica.co.jpまで。メールの件名に「ハンケイ5mショップイベント」とご記入ください。

難病患者を支える専門職たちが 第1回交流会を開催

阪急桂駅から西へバスで15分。会議室に入ると、なごやかな雰囲気で、人々が飲み物を手に談笑している。「カフェへ、ようこそ！」開かれていたのは、「難病カフェBamboo」。参加者は、介護支援専門員、介護福祉士、看護師、ホームヘルパー、作業療法士、医師など、さまざまな職種の人々。共通するのは、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）といった、神経難病の方と家族をサポートする立場にあることだ。

専門職同士の交流の場

悩みや体験を共有する

意外に思われるかも知れないが、サポートをする専門職の人たちが、本音で意見交換ができる場は多くない。

「患者さんがいるときはその方を中心にして話しますし、学会ならば症例の話になる。研修会や勉強会とはまた違うかたちで、隣接する仕事の人たちが率直に交流できる場が必要という思いで『難病カフェ』は発足しました」と発起人のひとり、坂本

さんは話す。

坂本さんは英国に留学していた時、老人ホームでボランティアをしたのがきっかけで福祉の道に進んだ。ケアマネジャーとして働くようになって14年目になる。

神経難病の場合、ご本人との意思疎通が難しいこともある。「本人の意

思を尊重したサポートは、どうすれば実現できるのか」と思い悩むうち

に、誰かと体験を共有したいと坂本さんは思うようになった。

一方、在宅医療・介護連携支援センターのコーディネーターとして働いている小泉こずえさん。

神経難病はその進行や症状、置かい。

れている状況が人によってさまざま

で、その支援には複数の事業所が入ることも多い。医療・介護専門職などからの相談を受ける窓口の小泉さ

んは、たくさん困り事を聞いてきた。「経験がなく困っていても、相談先がない。課題を感じていた」と話

す。常々、「神経難病に関わる方同士

が思いを話すことことで、見えてくることがあるかも」と、ケアマネジャー

の土井ゆかりさんと相談していた。

そんなときまたま坂本さんの熱い

思いを知る。「難病患者をサポートする専門職の、気軽な交流の場が作りたい」。

方向性が一致していると感じた



京都市西京区在宅医療・
介護連携支援センター
コーディネーター

小泉 こずえ さん



サポートする専門職の人が気軽に話し合う「難病カフェBamboo」を企画
シミズ居宅介護支援事業所 管理者
主任ケアマネジャー、介護福祉士
坂本龍吾さん
さかもとりょうご

3人は「飲み物片手に、リラックスして相談できるカフェ形式」のイメージを膨らませた。看護師の白井美絵さんからも、「気負いなく話せそう」と賛同を得た。そして6月19日、「難病カフェBAMBOO」が実現した。

患者さんを支えるために 経験と思いを共有する座談会

「患者さんを支えるために 経験と思いを共有する座談会」

今日は、第一回の難病カフェです。第一線で働いているみなさんの経験と思いを共有しましょう。この座談会が利用者のみなさんのためになるはずです」。

坂本さんのそんなあいさつで、「難病カフェBAMBOO」は始まりました。参加者は約30人。飲み物とお菓子とともに、4つのグループに分かれてテーブルに着席した。にこやかな雰囲気で自己紹介。話は弾む。

メインイベントは、参加者が数人ずつテーブルを回んで話す「みんなの実情座談会」。どんなケースを担当しているか、判断に困ったことなどを話し合ってグループごとに発表。内容をホワイトボードに記録した。その場では、実際に、難病の方と真摯に向き合っているがゆえの言葉が飛び交った。

「こういう専門職同士が話せる場って、ありそうでなかったんです。みんな自分の持ち場で悩んでいる。率直に話すことを、全員が求めていたんだなと実感しました。まずは続けてていきたい。福祉用具の業者さんや、デイサービスの職員さん。将来的には、利用者さんとご家族も参加してもらえるようにしたいですね」。難病カフェは今後、3ヶ月に一回程度、開くことを目指す。難病の方のよりよいサポートを目指して――。プロフェッショナルたちの交流は、新たな可能性を創出していく。



STAFF COMMENT

現場で感じたことには
ヒントや知恵が
隠れている



西京医師会
医師

塙本 忠司 さん

難病の患者さんの症状や進行具合は一人ひとり異なります。支援者はそれぞれの事情を把握し、個別に対応を考えています。ケアマネジャーが本来の業務ではないことを頼まれた時、どこまで応じれば良いかなど、判断に迷うことも少なくありません。カフェの座談会では、さまざまな立場の支援者が経験や悩みを率直に話し合うことができ、とても有意義な時間でした。支援者が現場を感じたことには、多くのヒントや知恵が隠れています。みんなで情報を共有すれば、地域で良いケアができることに繋がります。難病の患者さんやご家族は、重層的な支援を必要とされています。今後もさまざまな参加者が交流することで、医療、高齢者福祉、障害者福祉などについて、各自が理解を深めるきっかけになるだろうと期待しています。

悩みを分かち合い、
気軽に相談できる
関係を



居宅介護支援事業所オーパル
主任ケアマネジャー

土井 ゆかり さん

難病の患者さんをケアする仕事は、とても大変です。患者さんとご家族、事業所のフォローにとても時間がとられるため、「正直、やりたくない」という人もいるほどで、経験者に仕事が集中しやすい問題もあります。患者さんの中には24時間ケアが必要な人もいて、事業所を見つけるのが大変ですし、やっと見つけた事業所が患者さんやご家族とマッチしないこともあります。事業所に急いで連絡したいのに、なかなか連絡がとれないこともあります。そんな悩みを色々な人と分かち合い、つながりたいと思っていました。参加者どうし、カフェで話したことがきっかけで、いつでも気軽に相談できるような関係ができたら良いなと思っています。良いケアが受けられるまちづくりを目指して、この取り組みを息長く続けていきたいです。

みんなが
安心して暮らせる
地域を作りたい



アドナース洛西訪問看護
管理者 看護師

白井 美絵 さん

医師、ケアマネジャー、看護師、コーディネーターなど、さまざまな職種の方が体験をお話してください、それぞれの事例がとても参考になりました。地域で暮らす難病の患者さんたちは多くの支援を必要としています。ケアが長い間続くので、ご家族も疲弊しがちです。しかも、病気の進行とともに、胃ろうをするか、人工呼吸器をつけるなど、大きな意思決定をする必要に迫られます。これは非常に厳しいことです。支援者は、患者さんとご家族を、覚悟を持って支えています。立場は異なるものの、そんな思いを理解できる参加者と話すことには、大きな意味があると思います。カフェで生まれた交流をもとに、難病の患者さん、障害のある方、認知症の方、みんなが安心して暮らせる地域を作っていくたいです。

「一人の難病の方をサポートするには相当な覚悟も時間も必要」。「利用者の意向を聞きたいが、うまくいきかない」「提案したサービスを利用者さんが受け入れてくれない」「利用者宅環境をうまく整えることが大事」

本人の意向を聞きたいが、うまくいきかない」「提案したサービスを利用者さんが受け入れてくれない」「利用者宅環境をうまく整えることが大事」

「コミュニケーションをとる文字盤の扱いが難しい。私は慣れているヘルパーさんにお願いしているけれど、みなさんどうしていますか?」……。

職種は違つても、「神経難病の方と家族を支えたい」、その思いは一致している。終了後、熱気で満たされた会議室で、企画者の坂本さんはこう振り返る。

「こういう専門職同士が話せる場って、ありそうでなかったんです。みんな自分の持ち場で悩んでいる。率直に話すことを、全員が求めていたんだなと実感しました。まずは続けていきたい。福祉用具の業者さんや、デイサービスの職員さん。将来は、利用者さんとご家族も参加してもらえるようにしたいですね」。

難病カフェは今後、3ヶ月に一回程度、開くことを目指す。難病の方のよりよいサポートを目指して――。プロフェッショナルたちの交流は、新たな可能性を創出していく。



アレルギーや脱毛。ヘアケアでお客様をサポートしたい



アレルギー対応ヘアカラー
や医療用ウィッグを扱う
ヘアサロン
ヴィサージュ ロカ
FEATURE 2
菅正彰さん
真理さん

JR一条駅近くにある美容室「hair salon ヴィサージュロカ」。一見すると普通の美容室だが、「アレルギーに対応したヘアカラーができる店」として、知る人ぞ知る存在だ。また、抗がん剤治療などに伴う脱毛をカバーする医療用ウィッグの種類も豊富に揃える。京都府内には約6千店の美容室があるが、こういった方向性を打ち出す店はめずらしい。

経営する美容師の菅正彰さん・真理さん夫妻は「お客様の髪に関するいろいろな悩みを支えたい」という強い思いをもっている。開業から18年を迎え、「よりお客様がくつろげるよう」にと、2023年にサロンをリニューアル。アレルギーや脱毛に悩むような状況でも、自分らしく輝ける人生を過ごせるためのヘアケアを追求する菅正彰さんの思いを聞いた。

—どういった経緯で「ヴィサージュロカ」を始めたのでしょうか？

私の実家は、祖父の代から滋賀県

大津市で美容室を営み、祖母がしていたのは化粧品の販売。両親もともに美容師です。私が美容師になるのは自然な流れでした。

19歳で美容師の資格を取得し、千葉県の美容室に就職しました。最初は一店舗しかなかったのに、どんどん拡大して20店舗、従業員は300人もいる規模にまで成長した、勢いのある職場でした。ただ、一日十何人のお客様を忙しなく担当するなかで、「一人一人のお客様とじっくり向き合いたい」という思いが湧いてきました。そこで32歳のときに関西に戻り、独立。2006年に「ヴィサージュ ロカ」をオープンすることに決めました。

—「ヴィサージュ ロカ」ではアレルギー対応のヘアカラーが人気ですね。一般的なヘアカラーと、アレルギー対応のヘアカラーは何が違うのですか？

白髪染めを始め、ヘアカラーをされている方は多いですね。カラーリングに使われるアルカリカラー剤には「ジアミン」という酸化染料が使用されていることが多いのですが、このジアミンでアレルギー症状が出てしまい、「カラーリングができ

ない」と悩んでいる人が一定の割合でいらっしゃいます。かつての職場で、お客様から「カラーリングにアレルギーがあるんです」という話を

何度も聞いていましたが、うまく解決できずにもどかしく思っていました。

ジアミンでアレルギー症状が出ると、頭皮や生え際が赤く腫れたり、含まれていないカラーリング剤を多數取り揃えることにしました。

アレルギー対応は、美容室にとって簡単ではありません。まずジアミンを含まないカラーリング剤を購入する費用がかかる。さらに、容器の洗浄を徹底せねばならない、またカッピやハケ、耳キャップ、マドラー、クロスといった専用の道具を使うなど、アレルギー対応は神経をはらう作業が膨大に増えます。こういった作業に対し、きちんと細部まで対応するのが、従業員がたくさんいる大きなチェーン店になると難しいのです。

私たちがアレルギー対応に踏み出すことができたのには、2つの理由があります。

まずは、「細部まで目が行き届く」

——菅さんは、美容室の立場から、医療のサポートもしておられますね。

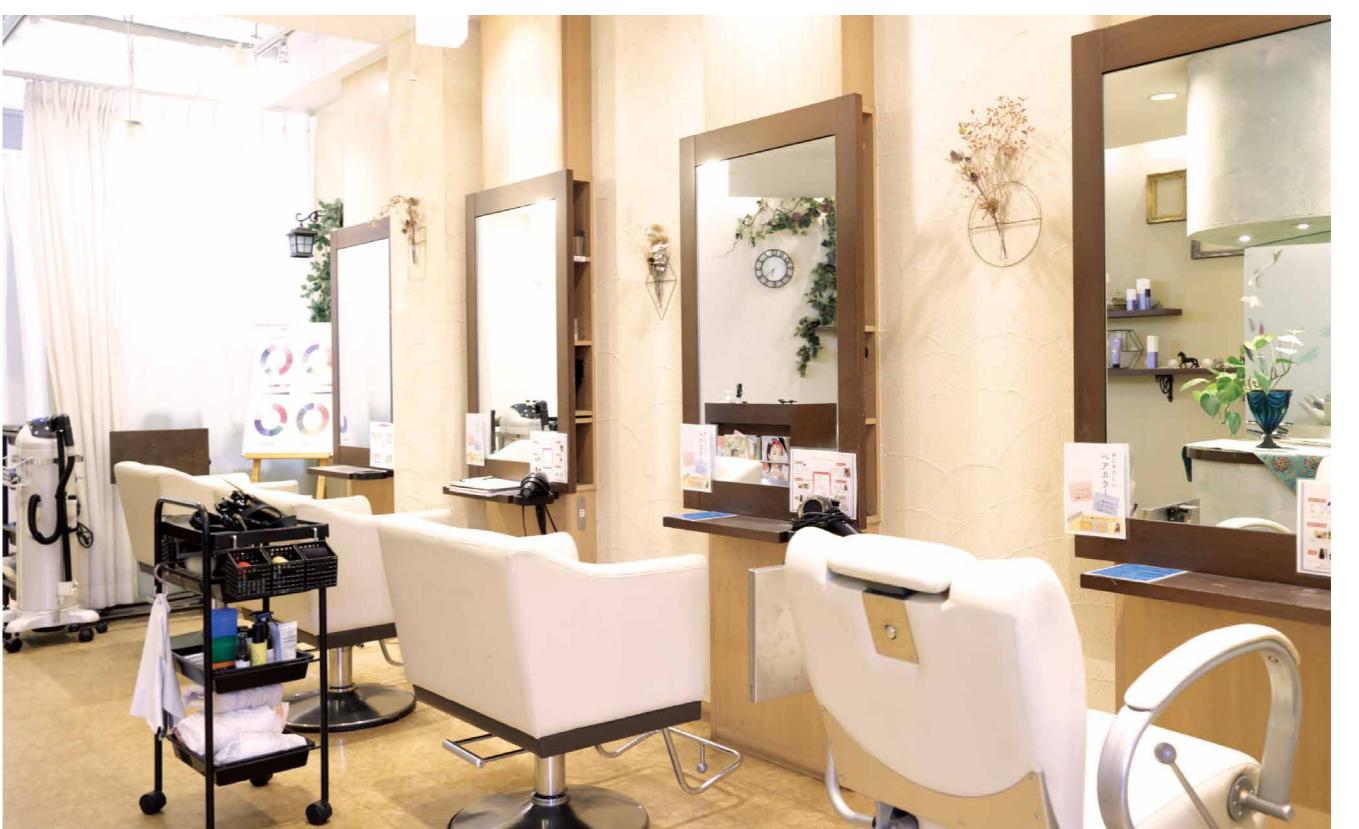
はい。アレルギーの方に寄り添った美容室を目指す姿勢が伝わって、大阪にある医療用ウィッグのメーカーから相談を受けました。2019年から京都で唯一そのメーカーの「認定サロン」として、抗がん剤治療や脱毛症、コロナ後遺症による脱毛などに悩んでいらっしゃるお客様から相談を受けています。

具体的には、医療用ウィッグの取り扱いに力を入れています。現在、

もうひとつ理由は、独立してから興味をもった栄養学で、食物アレルギーについて学んだことです。私にアレルギーについて多少なりとも知識があつたおかげで、対策に積極的に取り組むことができました。

来店されるお客様は、単に「髪をきれいにしたい」だけでなく、「安全に、自分らしい髪色を楽しみたい」という切実な思いを抱えておられます。「やっと出会えた」と言っていたくだくと、うれしくなります。

という夫婦で営む規模の商いであること。私たちが隅々まで緊張感を行き届かせて、アレルギー対策をできる環境が大切です。



京都大学附属病院をはじめ約50の医療機関と連携し、1ヶ月で約40人のお客様が医療用ウィッグの相談で来店されます。こちらは、美容師でピックリボンアンドバイザーの認定も取得している妻の真理がほとんど担当しています。

抗がん剤治療に合わせて医療用ウイッグをお求めになるお客様に、心地よい雰囲気の中で、ゆっくりとお話ししながら選んでいただきたい。そう考えて、店の奥に専用スペースを作りました。医療用ウィッグは素材や髪型を変えて約40タイプあり、ご自身に合ったものを選んでいただけます。医療用ウィッグと出会って「治療に向きになれた」とおっしゃるお客様も多いですね。

医療ウィッグのお客様とは、抗がん剤治療の後も、長いお付き合いが続きます。なぜなら、治療をやめた後、しばらくは肝臓の機能のバランスが乱れるため、最初のうちは、新しく生えてくる髪の癖が強くなる方が多いのです。そんなとき、美容師として私たちはその時期に適切なヘアスタイルを提案し、「もうちょっと我慢したら、またきれいな髪になりますよ」と、お伝えします。そうやって回復されていくお客様の不安が少しでもなくなるように励ますこ



出典：LINEASTORIA



店内奥のポスピタルアート



ホームページは
こちらから

hair salon ヴィサージュ 口力
京都市中京区西ノ京職司町26-9

俊朗の映画話

年間100本映画を見る

俳優・福山俊朗の映画コラム



福山 俊朗

神戸大学在学中に劇団そとばこまちに入団、15年間在籍しフリーに舞台・テレビ・映画に多数出演。FMラジオのDJ、歌のお兄さん、映画監督などマルチに活躍中。

薬剤師DJの音楽論

ゆう薬局の薬剤師による

イチオシ音楽紹介



船戸 一晴 (キャッチャーフィール)

ゆう薬局の薬剤師、ラジオパーソナリティ、DJ。FMたんご:みゅ~じっくばふえCatchy(水曜12時~)。FMまいづる、Radio Mix Kyoto:Premium Kyoto(月曜16時~)。

長い間ゲイであることを誰にも打ち明げず生きてきた、94歳の長谷忠

さんの日常と歴史を追うドキュメンタリー映画です。長谷さんが生まれた1929年という時代は、ドイツ人医学者が書いた医学書によつて同性愛は病気とされ、あつてはならぬものと認識されました。そんな中で自分が男性を好きだということが世間に知られるのはどれだけ恐ろしかったことでしょう。

社会の偏見や間違つた認識によつて、一人の何の罪もない人間が自分に素直に生きしていくことができなくなつてしまつ。その理不尽さに激しい憤りを感じます。そしてこの映画を見て、昔も今も日本という国が高齢者やマイノリティに対しても全く優しくない社会だということがはつきりとわかりました。これは個人にとっての教育、社会にとっての政治・制度の問題です。一人一人が生きやすい社会になるためにはこれから何十年という時間が必要なんだろうな

あとと思いました。
さらに映画の中で長谷さんに「事実は小説よりも奇なり」という言葉通りの信じられないことが起つりました。とてもない孤独と寂しさと悲しみを抱えながら、それでも優しく穏やかに力強く生きて来られた長谷さんは尊敬の念しか浮かびません。長谷さんの存在 자체が奇跡だと思いました。長生きして一日でも多く幸せな日々を過ごしていただきたいと心から願います。

94歳のゲイ



94歳のゲイ

2024 / 日本 / 90分

監督:吉川元基

出演:長谷忠、ボーン・クロイド

©MBS/TBS

今回は京都を中心に活動するバンド『Ribet towns』を紹介させて下さい! ちなみに、彼ら自身の自己紹介を引用すると、「なんでもない日常を“バレの日”にする京都の12人組トイボップバンド」。これが見事にバンドのスタンスを表しています。

北欧民族音楽+渋谷系&スウェディッシュ・ポップスからの影響や憧れをビントにしつつ、人数の多い大所帯バンドならではの祝祭感&多幸感に溢れる楽曲が先ずはとにかく最高です! グロッケン、ピアニカ、マンドリン、メタロフォンなどのトイ楽器/アコースティック楽器の特徴的な音色と、怒濤のコーラス・ワークがさらに彼らの音楽性を唯一無二のものにしています。

2024年2月に発表された2nd

dアルバム『ism』では、コロナ禍でメンバー全員が宅録できる環境を整え、これまで以上に全員で曲を作るこ

とに至ったからこそ、多様で奥行きのある楽曲が揃っています。作詞においても作詞家メンバーの「アイコ」が中

心ながら、他のメンバーの意見を踏まえて数往復して完成することが増えたそうです。タイトル曲『ism』では、『ああ世界は変わらない』としつつそれでも自分の道を進むというところでも自分の道を進むというところでも力強い曲で、世界を歌うときも大きな物語ではないところがリベタンの歌詞の魅力。のりくらり生きているよう見えて、大変な思いもしながら日々働いているし、好きなこともちやんとやるで! って……そんな市井に暮らす人たちの生き方を肯定してくれているように感じます。

他のオススメは、演劇的な魅力も感じられる『カーテンコール』と、爽やかに疾走する『1990』。今一番フェスで見たいバンドです。ぜひ聴いてみて下さい!



ism

Ribet towns
(hacoware record)

ホホホのすすめ

Recommended Books

ホホホ座座長・山下賢二が語るおすすめブックス談



山下 賢二

出版社勤務や書店員などを経験し、2004年に「ガケ書房」を開業。2015年移転・改名し、本屋であり雑貨屋でありお土産屋でもある店「ホホホ座」をオープン。

人形つかいパパの話

Recommended Entertainment

最小のキヤバで
最高のエンタメを!
人形つかいパパの奮闘記。



人形つかいパパ(佐藤謙)

京都大学卒業後、スタジオジブリに入社。雑誌編集職を経験し、日本テレビへ転職。映画プロデューサーとして活躍後、独立。現在、人形つかいとして、京都を拠点に活動。

こここのところ、僕は一人の女性の文章を読み返している。二人とも、もう故人だ。一人は知ったときはもうこの世にいなかつた。一人はまだ存命のとき、週刊誌の連載を毎号楽しみに読んでいた。

向田邦子とナンシー関。亡くなることで神格化されたような人ではなく、存命時から人気を博し、確固たる文体を持ついた人だ。その観察眼、表現力、毒、ユーモア。そして、後進の書き手がいまだ誰ひとり真似できないその切り口。

この『親愛なる向田邦子さま』は、向田邦子が出版界隈に登場した時の反響、そして飛行機事故で突然亡くなつた時の追悼文をまとめた本であ

る。その顔ぶれを見て、気付くことがある。圧倒的に男性が多いのだ。そもそも当時すでに大家のような存在の書き手たちだ。彼らをひれ伏せたものとは何だろう。今、そんな女性の書き手はいるのだろうか。そういうえば、ナンシー関を評価した顔ぶれもサバカル界のユニークな男性たちだった。

昭和と平成を切り取つたお二人の文章を令和に再読することは、その後日本の様相をより深く考察できるヒントになるかもしれない。

日本の人形劇史において、最も長い歴史を持つ「人形劇団ブーク」。国内外の様々な作品を観劇して分かったのは、私が初めて観た人形劇がブーク作品だったという奇跡です。ブーク作品には生きる上で大事な「良心」があり、人形劇だからこそ表現で優しく伝わるのです。観劇中に涙をとどめえなかつたのは、私自身に良心を発見できた喜びがあつたのだと思います。

そんなブークが人形つかい養成講座を開催したこと、京都から3ヶ月間参加しました。発声、身体のつかい方、人形づくり……様々な講義や実技を重ねていくなかで、「うわー」と思わず声が出た瞬間がありました。人形劇に出逢つて以降、いつも自分が人形劇をやるぞと心に決めた分、人形に初めて自らの手を入れて動かす瞬間を大切にとつていました。いつしか、人形を動かすことが高い高いハードルになつたのです。でも、ブークの人たちと

いることで、私はあつさりと人形に手を入れて動かし始めたのです。日々人形劇の公演をし続けているブークの人たちにとっては、人形を動かすことはいくつも当たり前の日常。人形をつかうことを特別視してハードルを上げていた私は、彼らと一緒にいることで自然に人形を動かせました。誰かの当たり前に触れると、自分の中のこだわりが溶けることを実感しました。

人形劇団ブークでの3ヶ月の短期

初めて観劇したブーク作品は「ねこのでかします」という作品です。猫が魚屋さんのお手伝いをすると……!?

ハンケイ 5m

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

vol.12
発行にあたり

「すべての人が生きやすい社会」を
本気で目指す人たちが
確かにいることに救われる。
鈴木穂乃(編集)

ハンケイ
5m
vol.12

2024年7月12日発行

発行 株式会社アドナース
京都市西京区大原野西境谷町2丁目14-10
075-754-6174

株式会社ユニオン・エー
京都市左京区北白川西平井町22-2
075-724-0410

企画・制作 株式会社ユニオン・エー

Staff 円城新子
山田梨世
吳玲奈

中山みゆき 鈴木穂乃

久野泰輝 木村実那子

龍太郎 福島明彦

坂井保夫 龍太郎

北原靖浩 辻正美

もりはなぐみ

スペシャルアドバイザー 鎌田智広

人は幸せになるために生きているのではなく、
色々な感情に触れるために生きていると
本で読みました。なるほどね。
鎌田智広(スペシャルアドバイザー)

痛みや悩みを「分かち合う」とは、
どうしたことなんだろう、と考える。
久野泰輝(編集)

本誌の、おすすめ映画、音楽、
本のコーナー。毎回、めちゃくちゃ
参考にしています!
中山みゆき(編集)

皆んなの5m、様々な5m、
繋がれば無限のチカラ!
辻正美(カメラ)

たくさんの「〇〇カフェ」という言葉は
聞いてきたけれど、「難病カフェ」は
なにより感激しました。
円城新子(編集)

正解がないことを考えるときは、
みんなの意見を聞いて考える。
その過程が大事。
山田梨世(編集)

行ったり来たり、を繰り返して、
不意に気がつく。
「わたし」が生きる日常は、
「あなた」が生きる日常もある、と。
龍太郎(ライター)

思いを、他者に伝えることで、
ものごとが進み始める。
その大切さを知りました。
吳玲奈(編集)

「狭く深く」の真摯なしごと。
自分ごとにできているだろうか。
毎号、自問し反省する。
森 華(デザイン)

長く生きていると色々な
アレルギー反応を
起こすようになります。
1つでも解消されると
体も気分も楽になります。
坂井保夫(カメラ)

自分の知らない場面で
より良い社会を目指し、
日々奮闘する方が沢山いる。
毎号勉強になります。
北原靖浩(デザイン)

フリーマガジン

自分たちの足で見つけた、オリジナルな情報。
本物を知る「京都人」のためのフリーマガジン。

ハンケイ500m

昔から京都の本物を支えてきたのは、伝統的な職人の技。そんな京都の土壤における「職人」というキーワードに着目し、独自の哲学・こだわりを持った現代の「職人」を、ひとつのバス停から半径500mに限定して、じっくり探索。そこで再発見した「京都らしさ」を、皆様にお届けします!

毎奇数月10日発刊

京都市地下鉄全駅、京都市内各所にて絶賛配布中!

バックナンバーは www.hankei500.com

ハンケイ500m公式Twitter
[@hankei500](https://twitter.com/hankei500)



ラジオ

『ハンケイ500m』のこぼれ話が聴けるラジオ。

ハンケイ500m × KBS京都Radio

サウンド版 ハコケイ500m

『ハンケイ500m』がラジオ番組になって、オンエア中! パーソナリティはサウンドロゴクリエイターの原田博行さんと、円城新子編集長。耳で聞く「あるバス停から『ハンケイ500m』の物語」は、雑誌とはまた別のおもしろさがあります。ポッドキャストでも聞けますよ!



WEB

京都に根差した情報誌×新聞社による
新しいWEBメディア。

ハンケイ500m × 京都新聞

ハンケイ 京都新聞

「京都らしさ」とは、
何だろうか。



アドナースpresents 私が半径5mで見つけた
おすすめスイーツ



アドナース
代表取締役
鎌田智広

チーズケーキと呼んだら良いのでしょうか? 同じような洋菓子は色々ありますが、西賀茂チーズが一番美味しいです。最初に食べた時は一個100円だったでしょうか。100円でこんなに感動できるのかと思ったものです。



union.a